

秋田市食品ロス実態調査報告書

令和3年10月11日版

1 実施概要

■実施日時	令和2年8月19日（木）20日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター 旧焼却棟ステージ
■作業時間	8:30～17:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ16名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> ・同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 ・調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 <ul style="list-style-type: none"> 【8月19日】 中央地区（檜山11袋）、東部地区（東通10袋）、西部地区（新屋元町又は日吉町5袋）、南部地区（御所野8袋）、北部地区（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和地区（河辺4袋） 【8月20日】 中央地区（川尻6袋、大町6袋）、東部地区（添川4袋、旭川4袋）、西部地区（新屋勝平町6袋）、南部地区（上北手8袋）、北部地区（飯島12袋）、河辺・雄和地区（雄和4袋） ・調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約245kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重さを計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手つかず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 435.7kg、1 袋あたりの平均重量は約 4.4kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 87.5kg、②東部地区は 18 袋で 69.3kg、③西部地区は 11 袋で 49.1kg、④南部地区は 16 袋で 73.2 kg、⑤北部地区は 24 袋で 117.0 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 39.6 kg であった。

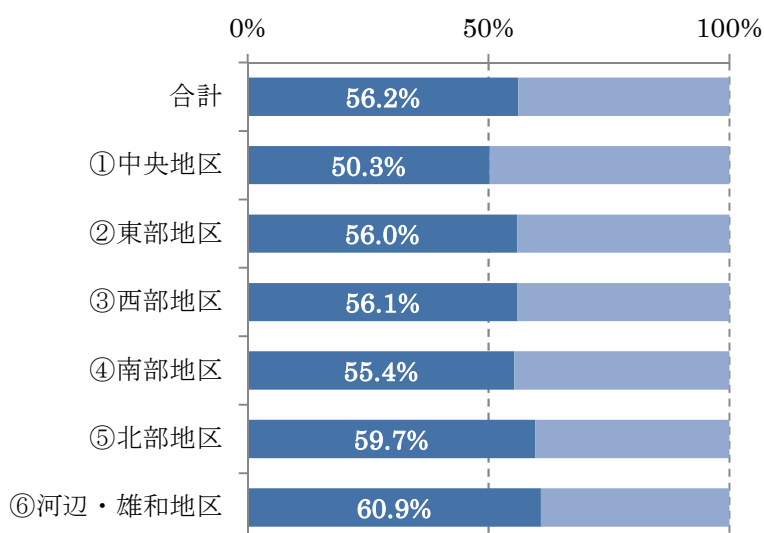
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	435.7	3,445	4.4	34.5
① 中央地区	23	87.5	790	3.8	34.3
② 東部地区	18	69.3	595	3.9	33.1
③ 西部地区	11	49.1	410	4.5	37.3
④ 南部地区	16	73.2	510	4.6	31.9
⑤ 北部地区	24	117.0	850	4.9	35.4
⑥ 河辺・雄和地区	8	39.6	290	5.0	36.3

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 56.2%、地域別に見ると⑥河辺・雄和地区が最も高く 60.9%、次いで⑤北部地区の 59.7%、③西部地区の 56.1%、②東部地区の 56.0%、④南部地区の 55.4%、①中央地区の 50.3%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	435.65	244.77	56.2%	43.8%
①中央地区	87.46	43.95	50.3%	49.7%
②東部地区	69.31	38.81	56.0%	44.0%
③西部地区	49.08	27.52	56.1%	43.9%
④南部地区	73.16	40.52	55.4%	44.6%
⑤北部地区	117.03	69.86	59.7%	40.3%
⑥河辺・雄和地区	39.61	24.11	60.9%	39.1%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

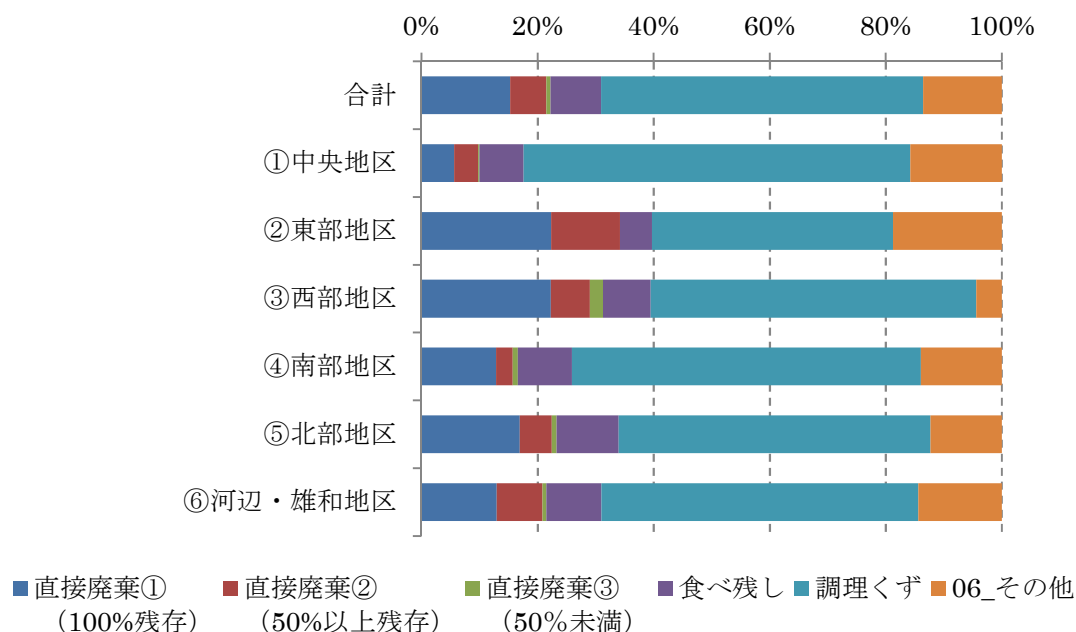
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計では30.9%、地区別に見ると②東部地区が最も高く39.7%、次いで③西部地区の39.5%、⑤北部地区の34.0%、⑥河辺・雄和地区の31.0%、④南部地区の25.9%、①中央地区の17.6%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、②東部地区の食品ロスの割合は、①中央地区よりも22.1ポイント高い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち15.3%を占めており、②東部地区と③西部地区が22.3%と高く、次いで⑤北部地区が16.9%、⑥河辺・雄和地区が13.0%、④南部地区が12.8%、①中央地区が5.6%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では8.7%、⑤北部地区が10.7%と高く、次いで、⑥河辺・雄和地区の9.5%、②東部地区が最も低く5.5%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	30.9%	15.3%	6.2%	0.7%	8.7%
①中央地区	17.6%	5.6%	4.1%	0.2%	7.6%
②東部地区	39.7%	22.3%	11.8%	0.0%	5.5%
③西部地区	39.5%	22.3%	6.8%	2.3%	8.2%
④南部地区	25.9%	12.8%	2.9%	0.8%	9.3%
⑤北部地区	34.0%	16.9%	5.5%	0.8%	10.7%
⑥河辺・雄和地	31.0%	13.0%	7.9%	0.6%	9.5%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

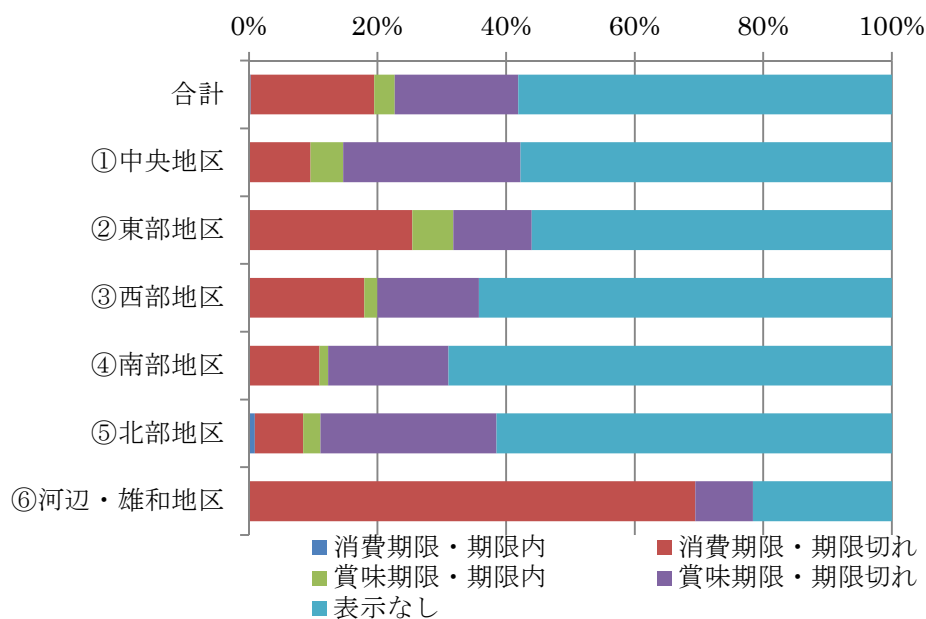
直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く58.1%であり、消費期限の表示があったものは19.5%（期限内が0.3%、期限切れが19.2%）、賞味期限の表示があったものは22.4%（期限内が3.2%、期限切れが19.2%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち0.3%、地区別では、⑤北部地区のみで0.9%であった。

「期限切れ」については、⑥河辺・雄和地区で最も高く69.4%であった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち3.2%、地区別に見ると②東部地区が最も高く6.3%となっている。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
	合計	0.3%	19.2%	3.2%	
①中央地区	0.0%	9.6%	5.1%	27.6%	57.8%
②東部地区	0.0%	25.4%	6.3%	12.2%	56.0%
③西部地区	0.0%	18.0%	2.0%	15.8%	64.2%
④南部地区	0.0%	11.0%	1.3%	18.8%	68.9%
⑤北部地区	0.9%	7.5%	2.7%	27.4%	61.5%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	69.4%	0.0%	9.0%	21.6%

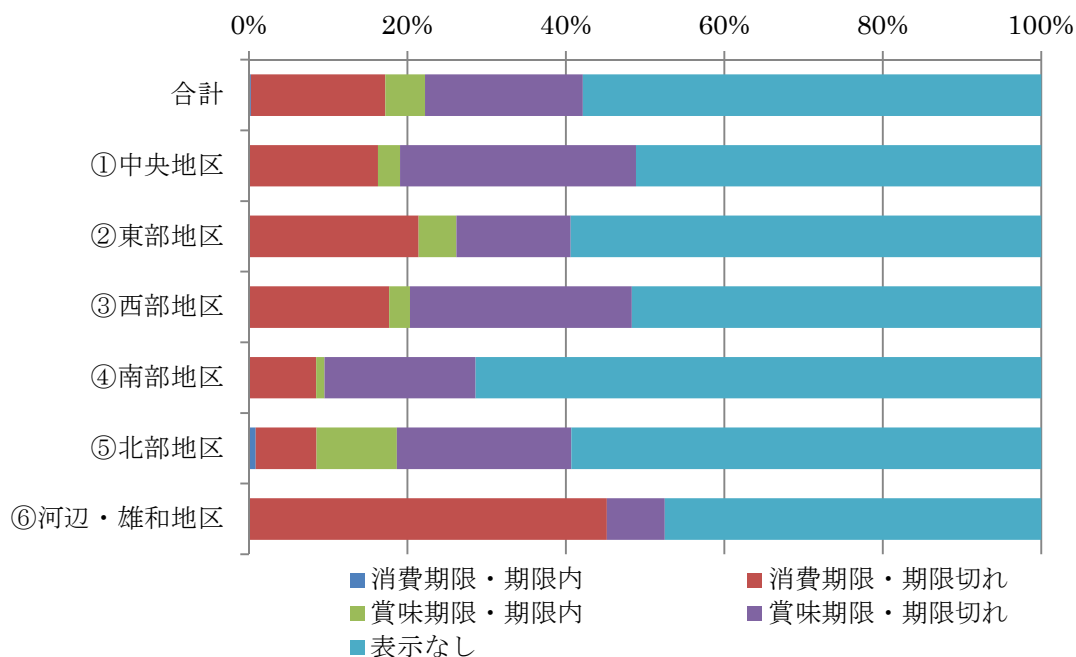
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く57.9%であり、消費期限の表示があったものは17.2%（期限内0.2%、期限切れ17.0%）、賞味期限の表示があったものは24.9%（期限内5.0%、期限切れ19.9%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち0.2%であり、地区別では、⑤北部地区のみで0.8%であった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち5.0%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く10.2%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.2%	17.0%	5.0%	19.9%	57.9%
①中央地区	0.0%	16.3%	2.8%	29.8%	51.1%
②東部地区	0.0%	21.4%	4.8%	14.4%	59.4%
③西部地区	0.0%	17.7%	2.6%	28.0%	51.7%
④南部地区	0.0%	8.5%	1.0%	19.1%	71.4%
⑤北部地区	0.8%	7.7%	10.2%	22.0%	59.3%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	45.2%	0.0%	7.3%	47.5%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、平成31年度の実績を参考に一人1日あたりの食品ロス発生量を推計すると90.1g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が64.7g/人・日、食べ残しが25.4g/人・日と推計された。

図表6 一人1日あたりの食品ロス発生量（秋田市）

